

第68号

編集・発行
 日本大学山形高等学校
 図書部
 図書委員会
 発行日
 平成25年2月20日
 (株)大風印刷



大形
 山

図書館報



こんな思い出がある

高等学校教頭 中村 薫

こんな思い出がある。

列車で高校に通う私にとって、当時は山形駅前にあった書店と駅中にある書店で列車待ちをするのが楽しみな時間であった。書棚の中から自分の読みたい本を探す。そんな数分間が至福の時である。月々貰う僅かな小遣いの中から毎月欲しい単行本と文庫本を一冊ずつ買いたい。高校時代に漱石や龍之介を全て読もうとか、日本や世界の詩集を出来るだけ多く読もうと決めて小遣いの半分は書籍代になった。

また、大学時代は夕方の銭湯帰りに「星書店」(銭湯の真ん前にあった)に寄って立ち読みをする。貧乏学生には欲しい高価な一冊の本を購入するのはなかなか厳しい。そんな時に少しばかりの予約金を置いてアルバイトをした。店主は快くその本を保管してくれるのである。バイト代を握りしめて中島敦全集を手にしたときは今でも忘れない。その後も星書店の店主と夫人にはお世話になった。立ち読みの常習犯にお茶や菓子まで出してくれ、就職が決まって引越すことを告げた時には「この店の中でどれでも欲しい本一冊プレゼントだ。就職祝いに！」と言われ、遠慮がちに文庫本を選ぶと、「それじゃ足りない。これだ。」といって、日頃好きで見ていた竹久夢二の画集を一冊戴いた。その後、夢二に惹かれ、夢二に関する本や画集などことごとく集めている。

こんな思い出がある。

高校に入って間もない頃、クラスの数人に声をかけられ、それがきっかけで友ができた。当時、列車通学とい

うこともあり、八時前には教室で数人の仲間と会話をを楽しむ。授業の予習をする。勉強を教え合う。そのうち一人が、「折角だから、運動でもしない？」と言う。すぐにみんな賛同する。結果、グラウンドの西側にある鉄棒によくぶらさがった。

友人Yはよく作家論や文学論を口にしていた。ある日の昼休みに「悠々たる哉天壤、遼々たる哉古今、五尺の小軀を以て此大をはからんとす。……大いなる悲観は大いなる樂觀に一致するを」と朗々と詠った。明治三十六年、旧制一高生が十八歳でこの世を去り、その死が人々に衝撃を与えた。藤村操の『巖頭之感』である。高校一年の私にとって初めて耳にする章句であり、全く理解できなかったが、一語一語が響いた。同じ年齢で暗唱するYに圧倒されたことを覚えている。Yはクラスの図書委員に立候補し、三年間委員を務めた。彼と私は図書館に新刊が入ると、どちらが早く借りて読むか競争したものである。図書カードに最初に載る自分の名前を楽しんだ。

こんな思い出がある。

ちょうど一年前になるうか、一九四一年に制作されたフランス映画『Le Silence de l'amer (海の沈黙)』が一週間だけ上映された。この本は一九四一年十月にヴェルコールによって書かれたものだ。

確か高校三年生の時に読んだ。何十年かぶりにもう一度読みたいと思い、部屋の書棚や二階の書庫を必死に探すことになった。岩波文庫で、定価★の『海の沈黙・星への歩み』あった！酸性紙の黄ばんだ頁を繰りながら読み進む。

——ドイツ占領下のフランスの地方都市。冬のある日、姪と暮らす老人の家に、ドイツ兵二人が訪れた。ドイツ将校のために部屋を提供させるためである。三日後に将校ヴェルナー・フォン・エーブルナックが現れ、家を長い沈黙が支配する……。

私の読書道

第13回

「Never too late」

教諭 若木健一（英語）

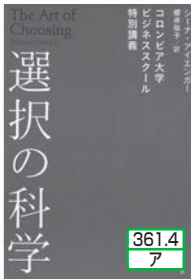
小中学校時代、読むものと言えば教科書と借りさせられる図書館の本でした。生まれたところに書店はなく、年数回行く隣の書店ではプラモデルコーナーに行く子供で、ほとんど読書とは無縁の生活でした。高校に進学し、大きな書店も知りませんが、放課後は部活動や友達付き合いが生活の中心で、夏、感想文のために本を読む程度で、やはり読書には関心が至らない高校生活前半でした。この読書との疎遠さが本へのこだわりの一因になったように思います。

二年生の秋、授業中ずっと国語の教科書を読んでいたことがありました。前席の背中の陰に隠れて読んでいたのです。先生にはお見通しでしたが、国語の時間の作品から気持ち切れなくなり、どうしても読みたくて仕方がなかったときのことを今でも思い出します。先へ先へと焦る気持ちとわくわくする気持ちで読みました。どうしても最後まで読みたくなり、図書館から本を借りて、家でも読みました。本の世界に入り込んだ初めての体験でした。大学生活は本との付き合いがこれまでの中で最も濃密な時期でした。友人らの読書の多さ、知識や感性の豊かさ、また物事への好奇心などにすごく刺激され、当然読んでいべき本

も未読が多く、急いで読み通していく日々でした。先生方や先輩から本を読めと言われ、文科系の研究も読むことから始まると実感し、半強制的に半脅迫的に本を求め、読みました。読書と無縁だった時間が本当にもつたいなかったとつくづく思います。読書歴急造のせいかわ、私は読むのが遅い。

小学校の図書館の本はほとんど読んだと言う人が身近にいますが、その人の半分以下です。また、内容を理解するのにも時間がかかります。ふさわしい時期にふさわしい本をたくさん読んでいたら、今私の中にある世界に、さらに広く深く豊かな感性の世界が広がっており、大いに楽しんでいる自分がいなかったかもしれません。

青少年時代は読むものの、観るもの、聴くもの、ふれるものすべてが自己形成のための栄養素になる無自覚的に食欲なときでしたが、今は経年を楽しみながら、日々の読書を自分自身の大切な楽しみに行っています。音読したり、速読したり、辞書を使いながら遅読したり、音源に続いてシャドウイングをしたりしています。これからどんな本をどんなふうに見たいか、楽しみでなりません。まずは図書館にリクエストしている『選択の科学』からでしょうか。「読書は充実した人間をつくり、書くことは緻密な人間をつくる」とのこと。本の世界をおおいに楽しみたいと思っています。



選択の科学

361.4
7

※このコーナーは、図書選定委員の先生方のリレー形式となっております。

としよかんニュース

本校を思つ心が

～先輩方による本の寄贈～

今年も、日大山高校友会より二十一回目の本の寄贈がありました。これまでにいただいた冊数は三百十冊を超えます。この会は山新グループの本校卒業生による会で、会長は木嶋正英氏です。先輩方の母校愛に感謝の気持ちをもってこれらの本を活用したいものです。



館内のパソコンが新しく

～プロダグ教育振興基金～

今年度の「助ヤマザワ教育振興基金」により、館内のパソコンと周辺機器が新しくなりました。視聴覚資料を充実させたり、スムーズなデータ処理をしたりと、皆さんにより快適に利用してもらえよう役立てたいと思います。ありがとうございます。



風薫る夏の図書館

～グリーンカーテンの試み～

夏の図書館、本校生徒会環境整備委員会により、見た目も涼やかに緑が茂りました。種をまくところから始まった朝顔つるのび、天然のカーテンとなつていきます。受験勉強に必死の三年生の目にも優しく写ったようでした。



平成24年度 日本大学山形高等学校・中学校 芸術鑑賞会

STATE BRASS 金管楽器演奏

六月七日 於 山形市民会館

今年の芸術鑑賞会はブラスバンドによる質の高いすばらしい演奏でした。パーカッション奏者は本校出身者との紹介にも何か感じるものがあつたはず。クラシックあり、ジャズあり、生徒がブラス奏者を指揮しての「となりのトトロ」の演奏や、本校吹奏楽部との共演もあり。大いに盛り上がり生徒や先生もマラカスを持ってステージに上がる場面もありました。音楽を身近に感じ楽しめた良い演奏会でした。

「ブラスサウンドが教えてくれたこと」

三年四組 原 田 果 歩

六月に行われたブラスアンサンブルのステイト・ブラスの芸術鑑賞会は、迫力と魅力に溢れた素晴らしいものだった。「オリンピック・スピリッツ」から始まり、「ガルメン」や「ティコティコ」、「ブラジル」など、クラシック作品からラテンやジャズ作品まで幅広い楽曲の演奏だった。前半は古典曲からトランペット独奏やトロンボーン独奏などゆったりとした雰囲気演奏だったが、後半は、照明を変えたりパーカッションを加えて、ラテンやジャズの名曲が披露された。また、AKB48のメドレーでは、会場の雰囲気最高潮になり手拍子が起り、演奏をより一層盛り上げた。

また、「指揮者体験コーナー」では、立候補した生徒がステージに上がり実際に指揮を体験した。どんなテンポでも演奏を合わせてくれるメンバの皆さんに正直驚いた。会場全体が笑いに包まれた演奏で、時間があつたという間に過ぎたひとときだった。

日頃、プロの音楽器の演奏を間近で聴くことができなかつたので、とても新鮮だった。ブラスアンサンブルと聞いたときに自分の中でどこか堅苦しさを大人が好むようなイメージを思い浮かべていたが、今回の演奏を聴きイメージと真逆で、多くの人に愛されている音楽だと感じた。そして、音楽でこんなにも人と人が一緒になって盛りあがり繋がることが出来る音楽の偉大さを知った。私も人とのつながりをこれからも大切にしたい。



生徒も先生もステージへ!



指揮者体験コーナー



本校吹奏楽部と共演



平成24年度 図書館講座

～読み聞かせをしよう～

恒例の図書館講座「読み聞かせをしよう」は、今年

は総勢十四名の参加でした。DVDを見て学び、絵本を選び、読む練習。三回の練習会を持ちました。本番は十一月十二日、あ

おぞら幼稚園。今回は「FM山形 岩崎敬のラジオオイド」の取材もは

読み聞かせを通して

二年十一組 木村 晴伸

今回、初めて子どもへの読み聞かせの活動に参加しました。絵本というものが小学校の一、二年生の時に読んだのがおそらく最後だった記憶があります。非常に懐かしく思う反面、自分がしっかり読み聞かせをできるか不安でした。しかし、練習を重ねるうちに自分が読み聞かせをしてもらっていた頃の

事も思い出し、徐々にイメージが描めてきました。

そして本番。私は幼稚園の方へ行きました。今回はFM山形で読み聞かせの様子を取材に来るということもあり、初めは緊張で声が震え気味でしたが、読んだ本の内容がユニークだった事と、園児達が絵本に集中してくれたおかげで、だんだんリラックスして楽しく読み聞かせができました。

園児達はとても素直でした。こちらが挿し絵に注目させるために声を小さめにする、園児達も小さな拳を握りしめ、絵をじつと見つめたり、逆に面白い場面で大きくすると、満面の笑みでキョッキョッキョと笑います。その笑顔はとてもキラキラしていて、まるで天使のようです。また、終わった後に歌のプレゼントもしてもらい、とても可愛かったです。

今回の活動を通して、私は絵本の魅力、奥深さを実感しました。絵本は、年齢に関係なく誰でも楽しむことができます。たった一冊でも、見た目以上の満足感を得ることが出来ます。絵本も含め、本との出会いをこれからも大切にしていきたいと思えます。



絵本選び、そして練習



絵本に夢中の園児たち



終了後のひととき



園児たちへの読み聞かせ



学童クラブへの読み聞かせ

平成24年度 『多読クラス賞』『多読個人賞』決定!

今年度も『多読クラス賞』の表彰が、十二月十九日の終業式に行われました。各学年一位の三クラスに近藤校長先生より、賞状が授与されました。また今年度は『多読個人賞』として各学年七位までと、各コース（スポーツ、進学、特進・中高一貫）三位までにも、賞状と賞品が贈られました。みなさんにとっても喜んでいただけたようです。クラスや個人で上位目指して、みなさんで読書を楽しんでほしいと思います。

受賞クラス図書委員の感想

一年十一組 佐々木龍生・長嶋 怜央
最初聞いたときにとっても驚きました。読書が好き人が多いクラスで、図書委員としても嬉しいです。これからも読書をして、知識を増やしていきたいと思っています。

二年十組 岩瀬 晴佳・鈴木 裕人
読書をした結果が学年一位という形になって表れたので、すごく嬉しいです。四月からは三年生になり忙しくなりますが、読書をする機会を持ちたいと思います。

三年十組 小肥穂乃花・齊藤 泰希
三年間で初めての受賞となり、とても光栄です。卒業後もいろいろな本を読んでいきたいと思えます。ありがとうございました!

個人賞受賞者を代表して……

一年生のなかで最も読書量が多かったと知り驚きました。これからも小説だけではなく、いろいろなジャンルの本を読みたいと思います。



一年十二組 丸山 怜央

1年11組	7.6冊
2年10組	6.5冊
3年10組	9.3冊
(全校生平均)	2.5冊)

※平成24年4月～11月までの貸出冊数÷各クラスの数で集計



私の一冊



『へんな間取り』

日本にはさまざまな物件があり、その数だけ間取り図が存在します。間取り図は、引越しや住宅購入の際に必ず目にし、居ながらにして見知らぬ住まいのたたずまいや特徴を私たちに教えてくれる、大切な住宅選びのナビゲーターです。この本には、雑誌や広告などに実際に掲載されていた「おかしい部屋の間取り図」がまとめられています。

そんな大切な間取り図の中に、本来ありえない部屋、考えられないしつられ、驚くべき配置などがまぎれていることがあります。例えば、異常に長い廊下やどうやっても入れない部屋、どうしてあるのかわからない謎の空間など、思わず笑ってしまうような間取り図が、この本にはたくさん載っています。しかもこの間取りは実存するので驚きです。自分が住むことを考えながら読むと、より一層楽しめると思えます。ぜひ読んでみてください。

一年八組 高山 裕樹



『猫弁』

婚活中の天才弁護士・百瀬太郎は、毎日持ち込まれるやっかいな依頼に悪戦苦闘している。ある事件をきっかけに「猫弁」と呼ばれるようになった百瀬に舞い込むのは、ペット関係の依頼ばかりだが、彼はとにかく引き受けて、共に考え、解決の道を探りたい。黄色いドアの向こう側、猫いっぱいの事務所で、依頼人と猫の幸せを考える日々、新たな依頼が無いんだ。「霊柩車が盗まれたので取り戻してほしい」



大山 淳子 著

「霊柩車が盗まれたので取り戻してほしい」百瀬は鼻水をこらえ、一瞬、太陽を見上げた。それからゆっくりと正義と自由のドアを開けた。人が死なない、みんな幸せになる笑いと涙ありのほっこりミステリーです。たくさん登場人物や百瀬が遭遇する事件などが結びつき、意外な結末に驚かされます。ぜひ一度読んでみてはいかがでしょうか。

二年五組 設楽 舞

『チョコレート・アンダーグラウンド』

本日五時以降、チョコレート禁止する。現代のとある国で、健全健康党が「チョコレート禁止法」を発令した。この法律のせいで、チョコレートだけでなく、キャンディーやチューイングガム、炭酸飲料など、すべての甘いものが処分されていった……。甘いものが苦手な人も安心はできない。砂糖が処分されてしまえば、料理の味も変わるのだから。そんなおかしい法律に戦いを挑むことにしたハントリーとスマッジャー。二人はチョコレートを密造し、「地下チョコバー」を始めることに。一人の少年は、自由とチョコレートを勝ち取ることができるのか？



この本は、読書が苦手だという人にも、ぜひ読んでもらいたいです。なぜなら、普段当たり前のように食べているチョコレートがなくなってしまう……それが本当に起こったらと、読書が苦手な人も想像でき、物語に夢中になれるからです。皆さんもぜひ、チョコレート片手に読んでみてください。

三年六組 鹿間 明花

図書委員会活動報告



委員長の仕事を終えて

前期委員長 三年十二組 小嶋 彬 嵩

私が図書委員長を引き継いでから約一年がたちます。私が図書委員長に立候補したのは、本が好きだから、というよりも、図書委員の仕事の楽しさや図書館の雰囲気が好きで、自分が好きな場所を更により良い場所にしたいと思ったのがきっかけでした。

こうして一年間を振り返ってみると、初めは委員長という仕事ははつきりとわからず、多くの壁にぶつかりました。しかし、副委員長の飯野君をはじめ、小山先生や司書の芳賀さん、図書委員のみなさんに支えられて、その壁を乗り越えることができました。

私が委員長として一番心に残っている事は、桜華祭での「古本市」です。前日の準備では、図書委員みんなで力を合わせて、短時間で終わらせることができました。当日も多くの図書委員が古本市の運営に協力してくれたおかげで、たくさんの方が古本市に足を運んでくれました。今年の桜華祭は一般公開日が一日だけではありませんでしたが、多くの方のバックアップがあるからこそ今の自分がある事を改めて認識でき、とても充実した古本市になりました。

私は一年間毎日図書館に足を運び、図書委員や執行部の仕事を見てきました。日を重ねていくうちにわかった事があります。当たり前の事かもしれないですが、一つ一つの仕事、カウンター業務や資料装備、広報作成などの仕事をスムーズに進めることにより、図書館は成り立っています。これらの仕事を忘れずに行って、図書館が更に良い場所になるように、図書委員が一致団結して頑張ってください。最後になりますが、今まで私を支えて下さった多くの先生方や日大山高生、そして図書委員のみなさんに感謝しています。本当にありがとうございました。これからも図書館をよろしく願います。



図書委員長として

後期委員長 二年十二組 古瀬 耕 平

わからない事の多い中、発足した新図書委員会も数カ月が経ち、全体としても委員会の仕事も慣れてきました。この調子でこれからも頑張ってもらいたいと思います。

昨年度は、多読賞の仕様変更、桜華祭での古本市で初めてしおり作りを行ったりなど、新しい事に挑戦しどれも好評でした。一方で日大図書館の発行、放送図書館通信の制作などへ時間をうまくとれなかったといった反省すべき点も挙げられます。中でも図書館の利用方法については、沢山の意見をいただきました。みなさんにとって利用しやすい図書館にしていきたいにも、こういった事を少しずつ解決していきたいと思っています。

今年度は、図書館の利用方法の改善を中心に活動し、図書館利用者数の向上につなげていきます。また、新しい事も積極的に行うことで、来年度の図書委員会へとつなげていきたいと思っています。そのためにも、委員長として委員会を引っ張っていかうと思っておりますので、よろしく願います。

キャッチフレーズ ● その一冊があなたを変える

平成24年度 図書委員会

図書委員会は、A（読書推進）、B（資料装備）、C（広報・データ）の3グループに分かれて活動しています。桜華祭での古本市など大きな行事・企画でも、執行部を中心に、協力しあい楽しみつづ、一生懸命取り組むことができました。

2年生												1年生																																																																																																																											
5組	4組	3組	2組	1組	12組	11組	10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	齋藤 健雄(前)	野川 咲希(後)	青木 英之(前)	酒井 翔平(後)	丸子 響	木村 遼(前)	村山 七帆	土屋賢太郎(後)	笹木美左貴(後)	岡本 詩織(前)	神保 歩(後)	打田 千裕(前)	鈴木 遥(後)	安孫子 巧	高山 裕樹(後)	新田 大陸(前)	大泉 夕奈(後)	鈴木 功祐	木村光之介(後)	山口 紘和	丸山 恰央(後)	熊坂 明紀	中野 聡士	後藤 侃(後)	高山まりえ(前)	齊藤 量(後)	村山 卓	小國 拓夢(後)	設置 舞(後)	長谷川史晃(後)	福地 咲耶(前)	吉岡 佑晟	多田 匡芳(前)	榎 環(前)	高梨 義規(後)	稲田 雄介(前)	菅原 大地(前)	菅原 亮雄(後)	無着 春希(前)	柴田 賢太(後)	梅津 郷平(前)	笹原 裕也(前)	山口 綾子(後)	山川 冴香(前)	玉木 良哉(前)	長嶋 恰央	佐藤 良哉(前)	横沢 佳希(前)	大類 翔(後)	鈴木 拓巳(前)	峯田竜之介(後)	菊池 脩人(前)	高橋 蓮(後)	清野 洗貴	高橋 翼(前)	菅原 大地(前)	菅原 亮雄(後)	無着 春希(前)	柴田 賢太(後)	梅津 郷平(前)	笹原 裕也(前)	山口 綾子(後)	山川 冴香(前)	玉木 良哉(前)	長嶋 恰央	佐藤 良哉(前)	多瀬 海汐	松尾 遼哉(後)	菅原 悠大	川股 悠大	柏倉 歩(後)	幸田健一郎(後)	奥山 智博(後)	鈴木 裕人(後)	武田 志徳	國井 勝徳	鈴木 惠里可	飯野 紘平	武田 涼	推名真理子	東海林 恰奈	駒谷 優(前)	片山 結(後)	鹿沼 明花	大沼 愛美	櫻井 美咲(後)	加賀 利亮	鈴木 群生	齊藤 慧(後)	小肥徳乃花	榎森 一晟	鈴木 遥	高橋 祐斗	西村 調	飯野真太郎	結城 大地	早坂 莉沙(前)	柴崎 峻吾(前)	野川 和希(前)	佐々木智浩(前)	葛田 一平	古瀬 耕平	戸津 成陽	菅野 隼人	百瀬 僚汰	鈴木 春香	原田 果歩	中川竜一郎(前)	辻村 成美(後)	丹野 祥子	原田 瑠偉	佐藤 大斗	長谷川亮太(前)	齊藤 泰希	大原慎太郎	小嶋 彬嵩	畑中 雅人	松尾 拓弥	神保 仁

前期執行部			後期執行部		
委員長	3年12組	小嶋 彬嵩	委員長	2年12組	古瀬 耕平
副委員長	3年15組	飯野真太郎	副委員長	2年10組	岩瀬 晴佳
グループリーダー	3年10組	小肥徳乃花	グループリーダー	2年7組	岩瀬 晴佳
A	3年10組	齊藤 泰希	A	2年7組	菅原 遼哉
B	3年10組	大沼 愛美	B	2年11組	武田 志徳
C	3年7組	大沼 愛美	C	2年8組	川股 悠大
2年生代表	2年10組	岩瀬 晴佳	1年生代表	1年6組	無着 亮雄



後期執行部です。よろしく願います！

※(前)：前期のみ (後)：後期のみ

図書館からのお願い

図書館はみんなが利用するところです。周りの人のことを考え、マナーを守り、気持ちよく利用しましょう。ご協力お願いします。

- 貸出期間が過ぎている本があったら、貸出延長の手続きをしてください。
- 本は一人三冊、二週間まで借りることができます。借りたい本が貸し出されているときはリクエスト（予約）ができますので、気軽に声をかけてください。
- 三年生は卒業するまでに、必ず本を返却してください。
- 利用者名簿にクラス、名前などを記入してください。集計するときの大事なデータとなります。
- 飲食・携帯電話の使用は禁止です。
- 私語を慎み、心静かに利用してください。
- 帰る時には、使用した図書や机、椅子は元の場所に戻して退席しましょう。

〈閲覧室の利用について〉

- 借りたい本はカウンターで貸出手続きを済ませてから、館外へ持ち出すようにしてください。
- 本は一人三冊、二週間まで借りることができます。借りたい本が貸し出されているときはリクエスト（予約）ができますので、気軽に声をかけてください。

年間図書貸出ベスト10

書名	著者名	平成25年1月31日現在 請求番号
1位 『ふがいない僕は空を見た』	窪 美澄	913.6 ク
2位 『ジフジフ来る〇〇』	片岡 K	049.1 カ
3位 『答えが運ばれてくるまでに』	時雨沢恵一	913.6 シ
4位 『あなたとの時間を愛と呼べるように』	きむ	911.5 キ
5位 『東のエデン 小説』	神山 健治	913.6 カ
6位 『夜が運ばれてくるまでに』	時雨沢恵一	913.6 シ
7位 『日本人の知らない日本語』	蛇蔵 海野 凧子	810.4 ヘ
8位 『ベン・トー』	アサウラ	913.6 ア
9位 『変な給食』	幕内 秀夫	374.9 マ
10位 『ソードアート・オンライン2』	川原 礪	913.6 カ

映画化された小説やライトノベルが今年も人気を博しました。『日本人の知らない日本語』シリーズは、毎年のように上位にランキングしており、手軽に読めてクスッと笑える本が人気の傾向にあるようです。また、ベスト10の半分がリクエストがあり購入した本でした。ここで紹介した本はほんの一部で、小説や詩集のほかにも占いや料理などの本もありますので、ぜひ図書館に足を運んでみてください！ (2年 笹原 遼哉)

ライブラリーフォト ~図書館・図書委員この1年~

前期図書委員会 4月



前期図書選定 5月



蔵書点検 8月



常時活動



桜華祭・古本市 9月



後期委員会発足 10月



村山地区図書委員研修会 11月



雑誌リサイクル 12月



編集後記

今年は桜華祭古本市でしおり作りコーナーを新しく設けた。様々な色、大きさ、形の紙を自由に配置しラミネートで仕上げるものだ。図書委員の生徒たちからの声で実現にこぎつけ、なかなかの好評を得た。地区の図書委員研修会では、消しゴムのハンコで独自の模様をつけたしおりを作った。手作りのしおりたち、今ごろその人の読書の友になっているだろうか。しおりは本の世界の入口を探すための目印。お気に入りの目印からその世界に入っていくのも楽しいだろう。本を読み始めるときにしおりも選ぶ。そんなことも楽しみの一つとなればと思う。(図書部)